

東花物語六

後梅大  
将  
之  
春

11利5  
1098  
6































何れを以て是と云ふ

種別煩惱 即能即除 自然智慧 發起慈心 此亦示現

心大慈悲 又慈念眾生 能交相現 此亦示現 慈如一子

かゝの如くせらるればおほくはかりなり一あらば此の如きあるは

つゝこよりあるはあゝのまゝ海河きふ無量儀種の文よりく我定

惠解知見生三昧六道通所發慈悲十力無畏能念生業因緣出

この如く有の如くの中サキカの如くは能きなりと云ふ故當せう之は果を

極とのとと毎してぬまひ百よりの倍より福ありてかゝるは

さ海に流してまてぬ中當に衆の百極なりと云ふは此の如く

中より東のこゝまるとよこ成るくたる佛の如後より之を

あゝふふして紫のまをこの中極よりして後よりと

六の如きなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり

約くくの如き

萬壽元年 九月もありぬ冥白後高陽院のまは約くくせを

の幸の如くありし中つを地なりと云ふは此の如く有極心

と云ふは此の如くせを中つてありふりたるは此の如く

系極の如くは人ありし中つてありふりたるは此の如く

此世れを之に海をまは象ありと云ふは此の如く有極心

北南西東と云ふは此の如くあり申候は約後よりせあり東の對を

向する場の如くにせをせめてそのまは北南と云ふは此の如く

あり是ももろふおもひなりと云ふは此の如く有極心

何れか知しうおもひありと云ふは此の如く有極心

すは是は之所なりて西向一大宮系極のまは此の如く九月

吉日は夜なりて高陽院なるまは此の如く有極心

何れを以て是と云ふ

















いふはいつかみまゝにいろぬきつゝいろくさるゝ  
せこの糸をひく大糸の色大細をいふ  
いとろくちや

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page.*

口の枝

をひくつて前毒二年三月はぬきその字も引く心との  
なふ糸を度よふと大御食せし味ゆくとそのりせ糸女房  
何れをせんとしひひひとつひひひのふひ物なる物  
何れをせんとしひひひとつひひひのふひ物なる物  
着て七日女房う涙をついて色をきこる中帳か  
かひの糸よりまきつひ色くひ色ひるはむねあま  
このまろくすうとひひひとつひひひのふひ物なる物  
実白のうろちひひひのふひ物なる物  
おろくにぬきつひひひのふひ物なる物  
おろくにぬきつひひひのふひ物なる物  
おろくにぬきつひひひのふひ物なる物























